

レンジフードファン取付説明書

電動ダンパー仕様で補足説明書が同梱されている物は、それに基づき電気工事を行ってください。

安全上のご注意

取り付けの前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けを行ってください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付け、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いを促すことと想定される内容を「警告」注意の2つに区分してあります。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

警告：人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容。

注意：人が損害を負う可能性及び物的危害のみの発生が想定される内容。

お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例

記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

警告



修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをすることがあります。



メタルス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないよう取り付けること
漏電した場合、発火したり感電することがあります。



交流100V以外では使用しないこと
発火・感電の原因となります。



配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って安全・確実に行うこと
誤った配線工事は感電や火災のおそれがあります。



アースを確実に取り付けること
故障や漏電のときに感電することがあります。
アースの取り付けは販売店にご相談ください。



自然排気型のストープを使用するときは、空気の取入口（給気口）により十分給気される配慮をすること
排気ガスが室内に逆流し、一酸化炭素中毒を起すことがあります。

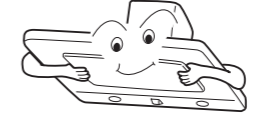
注意



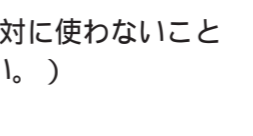
本体の取付工事は十分強度のあるところを選んで確実にすること
落下により、けがをすることがあります。



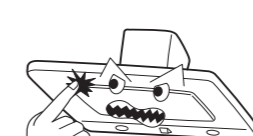
羽根や部品の取り付けは確実にすること
落下によるけがをすることがあります。



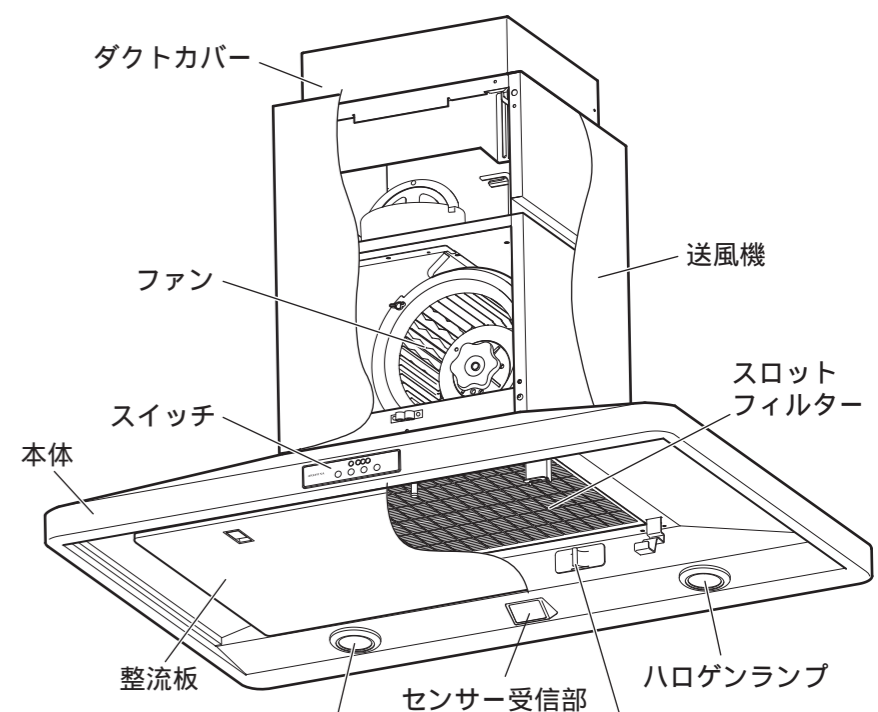
浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと（浴室用換気扇をお使いください。）
感電および故障の原因となります。



運転中は羽根の中に指や物を入れないこと
けがをすることがあります。



各部の名称



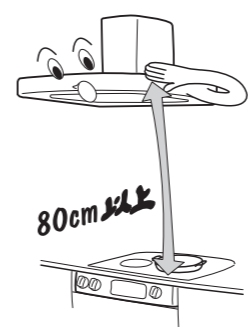
取り付け前の調査と準備

注意

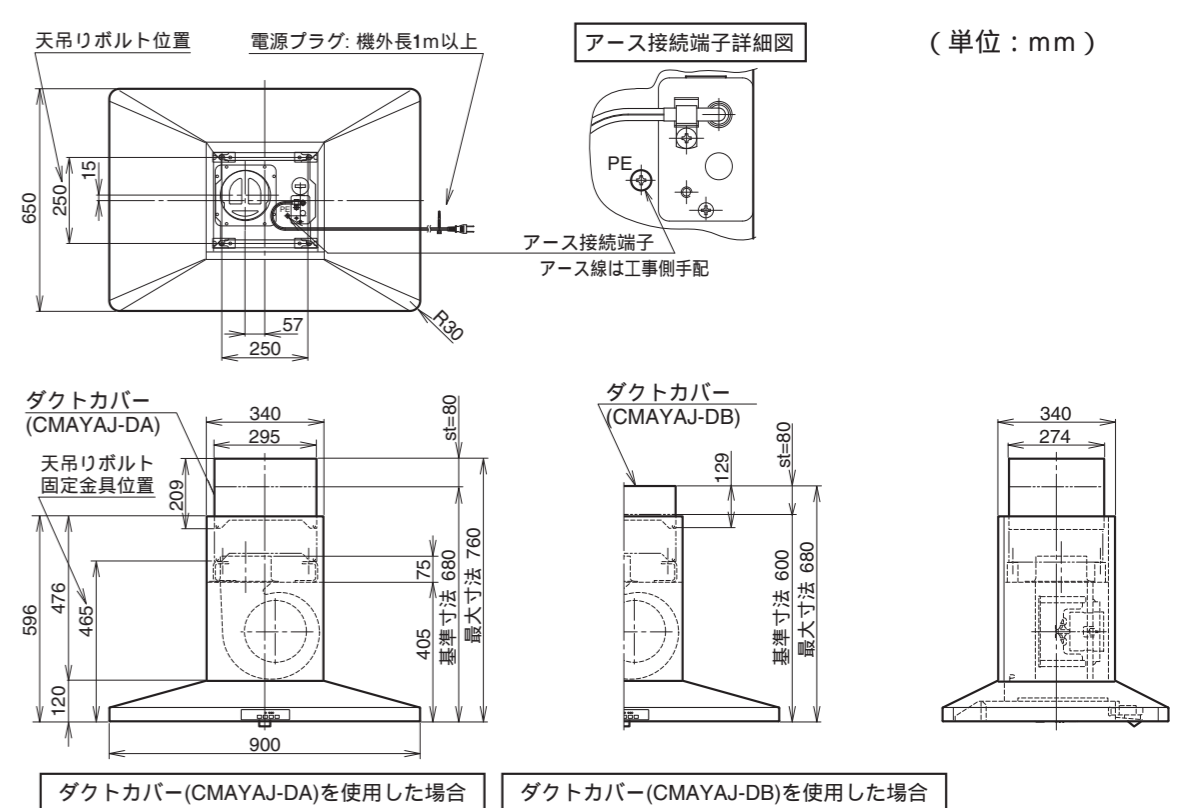
レンジフード本体の取付工事は、十分強度のある天井内または補強等に確実にすること
落下によりけがをすることがあります。
取付材が弱くと振動が発生することがあります。

- 取付個所の強度確認
製品を支える強さが必要です。
レンジフードの本体はM12の吊ボルト4本を使用し、天井内の梁などへ取り付けます。
吊ボルトは耐荷重200kg/本以上となるように取り付けてください。
- 別売部品の準備
排気工事に応じた別売部品の準備が事前に必要です。（詳しくは別売部品の項をご参照ください。）

- 標準取付法
本製品の標準取付法は、ガス器具の上面から製品の下端まで80cmです。火災予防条例では、グリッドフィルターの下端がレンジの真上80cm以上となっています。
- 電源コンセント・ブレーカー
コンセントおよび電源ブレーカーは専用のものを設置してください。（交流・単相100V）
コンセントは、JIS C8303 2極差込接続器 15A 125Vをご使用ください。



製品寸法図



レンジフード	ダクトカバー	ダクトカバー	ダクトカバー
800	2200-2280	80×A 80	CMAYAJ-DB
825	2305-2385	80×A 160	CMAYAJ-DA
850	2325-2395	80×A 160	CMAYAJ-DB
875	2330-2410	80×A 160	CMAYAJ-DA
900	2350-2330	80×A 80	CMAYAJ-DB
900	2350-2460	80×A 160	CMAYAJ-DA
900	2350-2380	80×A 80	CMAYAJ-DB

取り付け上のご注意

ガス器具の幅はレンジフードの幅以内のものをご使用ください。ガス器具はレンジフードの前面より手前にはみ出して設置しないでください。排気効率が低下します。

レンジフードの取り付けは、薄板の金属部（壁内ラス網等）と接触しないように、十分に注意して行ってください。なお、本体の壁への埋め込みは絶対にやめてください。漏電した場合発火することがあります。

排気工事をされる場合、建築基準法（同施行令）および消防法等の関連法規に従って施工してください。

屋外壁面の排気出口に取り付けるベントキャップまたはパイプフードの通気抵抗は50Pa時400m³/h以上のものをご使用ください。

防虫網付きのものは目詰りして排気性能が低下する場合がありますので使用しないでください。

IHクッキングヒーターと合わせて使用する場合には横風等の影響で煙の捕集性能が悪くなる場合があります。また、キッチンの気温が低いときに使用された場合にはレンジフードの表面が結露することがあります。この場合は拭き取って使用してください。

非常に長いダクトや細いダクト、あるいは極度に屈曲したダクトは排気効率が落ちたり低下させたり、騒音が大きくなりますので使用しないでください。

周囲温度が40℃以上になる所には取り付けしないでください。火災・故障の原因となります。

製品仕様を改造してのご使用は絶対におやめください。電源は専用コンセントを設けてください。火災・感電の原因となります。

製品の取付工事は手袋を着用してください。薄板の切り口などでけがをすることがあります。

製品はガス器具の真上に取り付けてください。なお、製品取付高さは、製品の下端がガス器具の真上80cm以上になるようにしてください。

ダクトの不燃処理について
・ダクトを50mm以上の不燃材料、または20mm以上の国土交通大臣不燃認定品の不燃材料で被覆してください。
・施工要領は、各メーカーの「標準施工要領技術指導書」「検査要領書」に従ってください。

レンジフード下部には、湯沸器を絶対に取り付けしないでください。また、横方向50cm以上離して取り付けてください。湯沸器の真上は高熱になるため故障の原因となります。

建物が密閉されている場合は必ず、約400cm²程度の空気取入口を設けてください。
部屋の中央で料理される場合は、油煙が捕集されませんので、お台所の全体換気のために、他の換気扇と併用していただければ、より優れた換気ができます。

付属品

- ソフトテープ（1本）
排気口とダクトとの隙間をふさぐのに使います。
- トラスねじ M4 × 10（4本）
ダクトカバーと送風機本体との固定に使います。

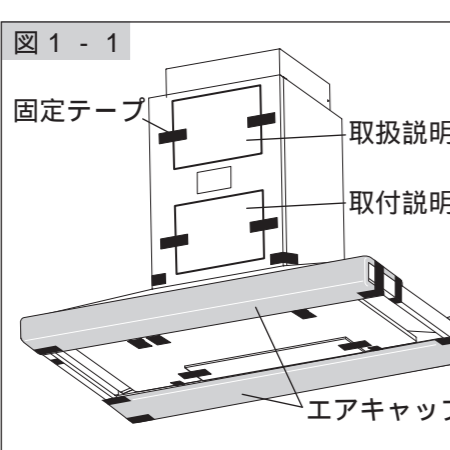
別売部品

- パイプフード (WK-15K)
外壁に取り付け、雨の侵入を防ぎます。
- 丸形フード (VC-15H)
外壁に取り付け、雨の侵入を防ぎます。
- 深形フード (VCL-15H)
外壁に取り付け、雨の侵入を防ぎます。
- ダクトカバー (CMAYAJ-DA)
ダクト取付部をカバーします。
- 防火ダンパー付きウェザーカバー (WK-15DK)
外壁に取り付け、雨の侵入を防ぎ、防火の役目もします。
- 防火ダンパー付き丸形フード (VC-15DH)
外壁に取り付け、雨の侵入を防ぎ、防火の役目もします。
- 防火ダンパー付き深形フード (VCL-15DH)
外壁に取り付け、雨の侵入を防ぎ、防火の役目もします。
- ダクトカバー (CMAYAJ-DB)
ダクト取付部をカバーします。

取り付けかた

1. 付属品の確認

- 取付説明書が包装されているポリ袋から付属品を取り出し、上項の付属品一覧により不足がないか確認してください。
- 固定テープ・取扱説明書等を取り除きます。（図1-1）



注意

製品取り扱いの際は、厚手の手袋をすること
ステンレス鋼板の切り口や角でけがをすることがあります。

作業は2人以上で行うこと
製品は29kgの重さがあります。

2. 取付準備

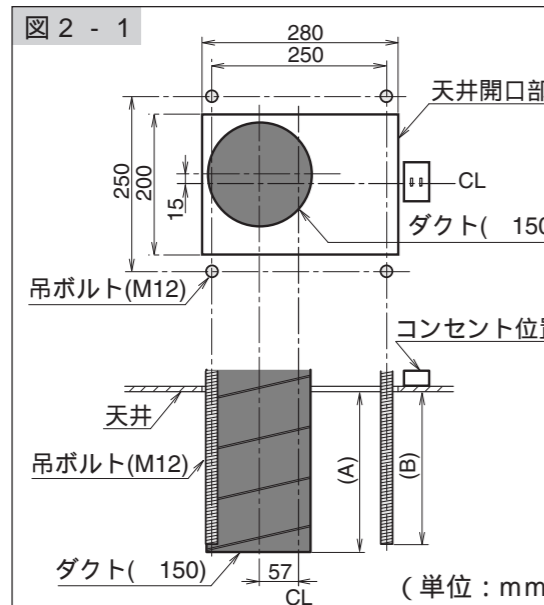
警告

メタルス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に金属製ダクトが貫通する場合、金属製ダクトとメタルス、ワイヤラス、金属板とが電氣的に接触しないように取り付けること
漏電した場合、発火したり感電することがあります。

注意

浴室など湿気の多い場所では絶対に使わないこと
感電および故障の原因となります（浴室用換気扇をお使いください）。

- 下図を参照し、天井面にダクト穴を開けてください。また、天井開口部近くの補強材または野縁等に専用コンセントを設置してください。
- 150のステンレスダクト、またはバイラルダクトを図のようにレンジフードの上部に突き出すようにセットしてください。（図2-1）
- M12の吊ボルトを4本、天井内の梁などの確かな部分に固定します。固定ピッチは前後、左右とも250mmです（製品寸法図参照）。

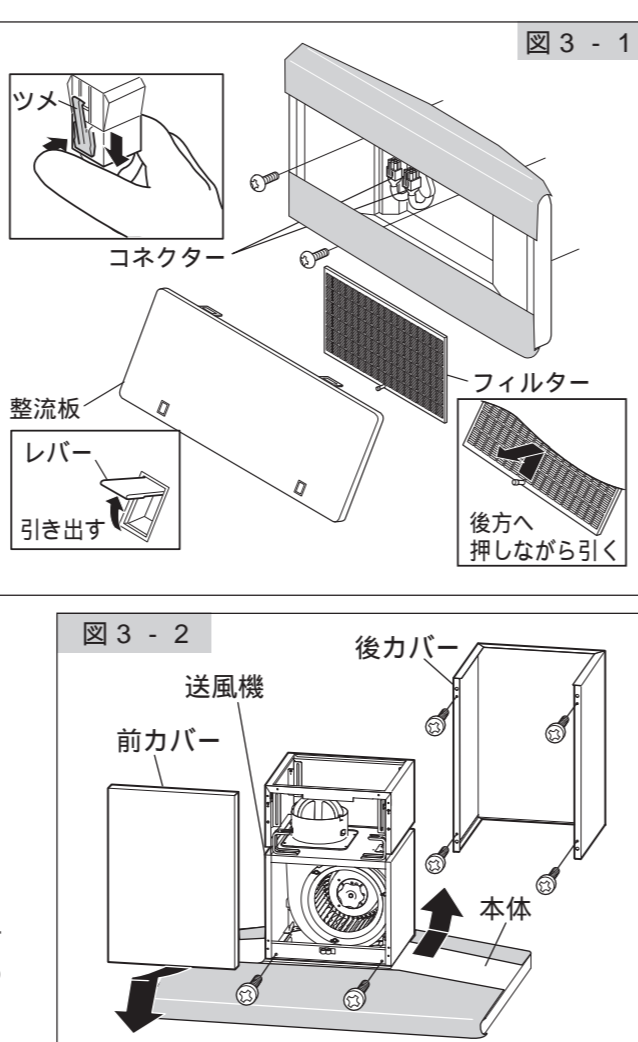


天井高さ 2350 の場合 (単位: mm)

ガス器具の高さ	ダクト突き出し長さ(A)	吊ボルト突き出し長さ(B)
800	315 ± 10	310 ± 10
825	290 ± 10	285 ± 10
850	265 ± 10	260 ± 10
875	240 ± 10	235 ± 10
900	215 ± 10	210 ± 10

3. 本体の準備

- 本体と送風機を分離します。
(1) 本体から整流板、スロットフィルターを取りはずします。
床面が傷つかないように、保護シート等を敷いた上で作業を行ってください。
(2) 電気配線のコネクター2か所、取付ねじ2本をはずします。（図3-1）
コネクターはツメの手前側をつまみながら引き抜きます。（コードを持って引き抜かないでください。）
(3) 送風機の前カバー、後カバーを取りはずします。取付ねじ2本をはずして本体から送風機を後ろへスライドさせて取りはずしてください。（図3-2）



- 排気口に付属品のソフトテープを貼り付けます。（図3-3）

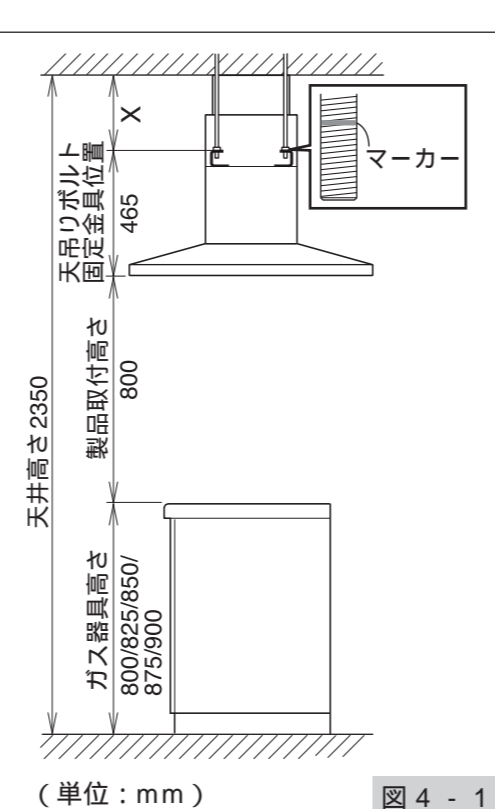
4. 本体の取り付け

注意

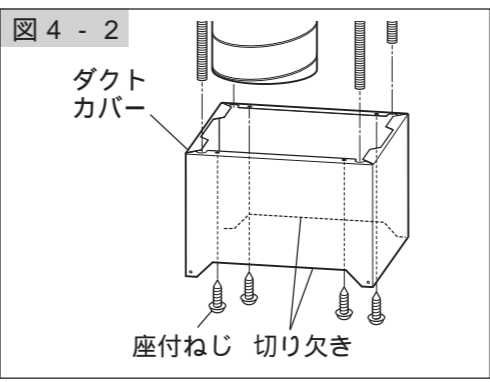
本体の取付工事は十分強度のあるところを選んで確実にすること
落下により、けがをすることがあります。

部品の取り付けは確実にすること
落下により、けがをすることがあります。

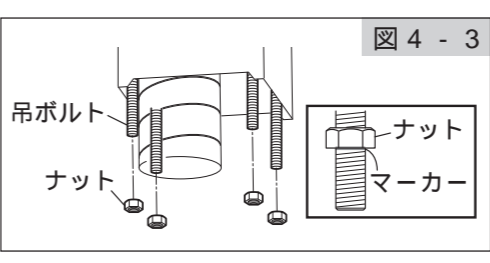
- レンジフードの固定位置を決めます。図を参考に、次式によりマーカ位置(X)の値を算出してください。
 $X = 2350 - (\text{ガス器具高さ} + 800 + 465)$
例：ガス器具の高さが800mmのものを設置する場合：
 $2350 - (800 + 800 + 465) = 285$
天井からのマーカ位置(X)は285mmとなります。
- 天井吊りに天井からXの値の位置にマークペンなどでマーカをつけます。（図4-1）



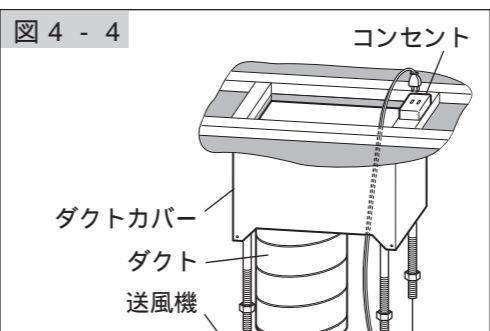
- ダクトカバーを座付ねじ4本で天井面に固定します。座付ねじはダクトカバーに付属しています。（図4-2）



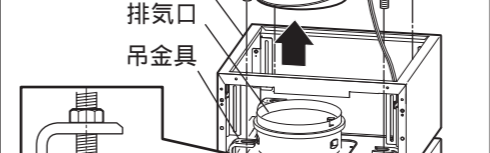
- M12のナットを吊ボルトのマーカ位置までねじ込みます。（図4-3）



- 送風機を持ち上げて4か所の吊金具に吊ボルトを差し込み、吊り金具を挟み込むように吊ボルト下側からM12のナットをしっかりと締め付けます。
(2) 電源プラグを天井裏などのコンセントに差し込んでください。（図4-4）



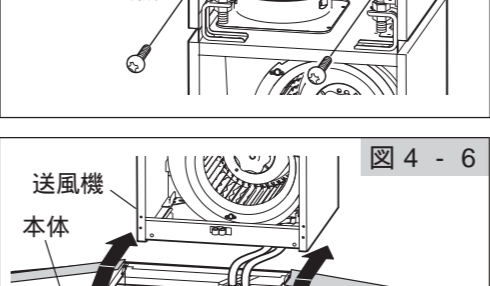
- ダクトカバーと送風機を取付ねじ4本で固定します。（図4-5）



- 本体を送風機にスライドさせて組み立て、取付ねじ4本で固定します。コネクター2か所を差し込んでください。（図4-6）



- ダクト接合部へ漏れ防止のテーピング（アルミテープ）を行なってください。（図4-7）



5. 電気配線

警告

修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理・改造をしないこと
発火・感電したり、異常動作してけがをすることがあります。

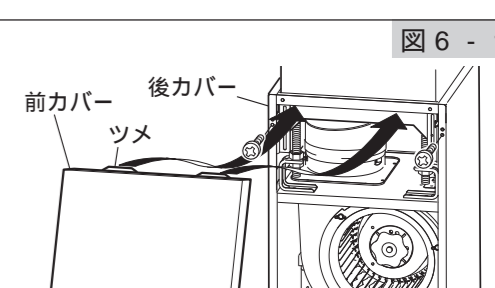


- 交流100V以外では使用しないこと
発火・感電の原因となります。
- 配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って安全・確実に行うこと
誤った配線工事は感電や火災のおそれがあります。
- アースを確実に取り付けること
故障や漏電のときに感電することがあります。
アースの取り付けは販売店にご相談ください。

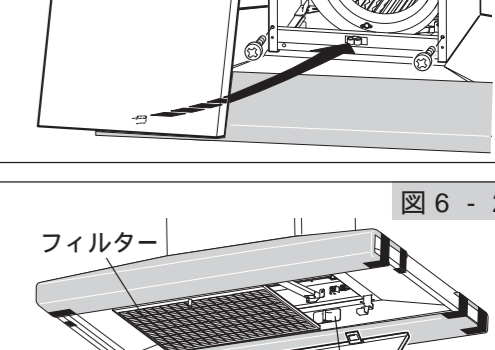
コンセントは、JIS C8303 2極差込接続器 15A 125Vをご使用ください。必ずアース（第3種接地工事）をしてください。アース接地位置は「製品守通書」を参照してください。アース線は施工事例にて手配してください。電源プラグをコンセントに差し込みます。

6. 運転準備

- 各部品が確実に組み立てられているか確認し、送風機の後カバーを取付ねじ4本で固定し、前カバー上のツメを引っ掛けて上方へずらしながら下側のローラーキャッチをはめ込んでください。（図6-1）



- オイルトレイが所定位置にセットされているか確認し、フィルターと整流板を取り付けてください。（図6-2）



- 前・後面のエアキャップや、残っている固定テープなどをすべて取り除いてください。

7. 試運転

注意

運転中は危険ですから羽根の中に指や物を入れないこと
けがのおそれがあります。



本体の各操作スイッチを押し、運転状態を確認してください。スイッチの操作、運転状態等については取扱説明書5ページをご覧ください。運転時、各通風の排気が正しく行われていること。異常な騒音、振動がないこと。屋外の排気出口から排気されていることを確認してください。取り付けたまたは施工上に発生した不具合で修理を依頼されますと全て有料となりますので十分確認してください。

8. お客様への説明

取扱説明書によって機器の取り扱いを説明してください。取扱説明書と共に、この取付説明書を必ずお客様へお渡しください。

[製造元] **富士工業株式会社**
本社・営業部 〒229-0006 相模原市淵野辺2丁目1番9号
TEL 042(768)3754 (営業部)